

令和6年度データサイエンス・ベーシックプログラム

点検・評価報告書

1. カリキュラムについて

当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、リテラシーレベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの内容を教育しているかについて、当該科目の構成科目である次の科目のシラバスで点検を行った。

- データサイエンス総論 I
- データサイエンス総論 II
- エンジニアのためのデータサイエンス入門
- データサイエンス概説

上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの学修内容を含んでいることが確認できた。データサイエンス総論 II は 16 科目が開講されているが、すべての科目で同じデータを使って演習を行っている。昨年度から追加した「エンジニアのためのデータサイエンス総論」ならびに「データサイエンス概説」にて 2 つの学部のみではあるが専門教育と当該プログラムのカリキュラムを有機的に連結することができ、教育効果が高まりつつあると思われる。なお、文部科学省が定めるリテラシーレベルのカリキュラムが改訂され、「生成 AI」の教育内容が拡充された。これに伴い、当該プログラムのカリキュラムにも「生成 AI」の内容を追加する必要がある。

2. 履修状況について

新潟大学では、一学年の入学者数がおおよそ 2300 人のところ、半数以上の 1833 人が当該プログラムを修了している。また、医学部医学科、教育学部、工学部はほとんどの学生が、他の学部も入学定員の半数以上の学生が当該プログラムを修了していることから、新潟大学では理系学部だけでなく、文系学部でも半数以上の学生がリテラシーレベルの教育を受けていることが確認できた。

文部科学省は全国すべての大学生、高等専門学校生にリテラシーレベルのデータサイエンス教育を実施することを目標としているので、今後も継続して多くの学生が当該プログラムを履修するように学生への呼びかけなどの努力が必要である。

3. 授業評価アンケートの結果について

データサイエンス総論 I は 19 科目、データサイエンス総論 II は 16 科目、エンジニアのためのデータサイエンス入門は 9 科目、データサイエンス概説は 1 科目が複数の教員により開講されており、授業評価アンケートを点検した。ほとんどの科目において、学生は受講マナーを守って授業に参加しており、シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員

のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。一方、「学生が積極的に議論や協同作業すること」や「教員が学生の発言を促す」の評価については、昨年同様一部の科目では評価が高かったが、多くの科目では評価が低かったため、改善が必要であると考ええる。なお、今年度から本プログラムとは別に全学の1, 2年生を対象とした「人工知能入門」を開設しており、後半に各学部専門領域から1名ずつオムニバス形式の講義を取り入れている。このような試みが授業の改善・改革についての情報共有の足がかりになっていくものと考ええる。

4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの内容を含んでいることが確認できた。今後は、当該プログラムのカリキュラムに「生成AI」の内容を拡充させる必要がある。また、当該プログラムを履修する学生を増やす努力が必要と考える。さらに、授業担当教員で授業方法を共有し、授業改善を行う必要がある。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI教育プログラム評価委員会